

## 第3 命を語り継ぐ講演会

## 1 初年度の取組状況

月 日	対 象	人 数
19年6月18日	美作県民局青少年相談員	80名
6月26日	津山教育事務所管内教諭	30名
6月28日	美作地区市町村教育委員	50名
7月11日	美咲町青少年相談員	30名
12月 8日	美咲町立中央中学校	300名

(なお、岡山県津山保健所と共催で平成20年3月13日に自殺予防対策研修会・命を語り継ぐ講演会を自死遺族の方ともに行っている。)

## 2 講演会の感想から

### (感想・講演会)

- 小学校教員です。自分を表現することの下手な子ども、人の気持ちを想像しにくい子ども、言葉でうまく伝えられない子どもたちに、何かと人とつながることの大切さや、自分もかけがえのない大切な存在であると共に、人も大切な存在だということを知って欲しいと日々悩みながら頑張っているつもりです。どうかお体を大切に、これからも圭司さんと共に「命の授業」を多くの人に伝えていってください。
- 「子どもたちは、いじめをするのに意識をもっていない。」そのとおりだと思います。意識改革をするためにも、もっと地域や学校でこのような講演を行っていただきたい。
- 私も人の親として、心が切ない話でした。父親の在り方の話もあれば良かったと思いました。これから犯罪を起こさせないための働きかけを考えていければと思いました。
- 小学校の教員です。子どもたちと向き合う立場として、市原さんのお話はたいへん参考になりました。命の大切さを子どもたちに強く訴えていきたいと思っています。
- 本当につらい、悲しい気持ちを感じました。教育現場に関わる者として、真の人権感覚を身につけていくことの困難さと大切さを感じました。この講座で感じた人権感覚の育成に、課題をもって取り組んでいきたいと思えます。ありがとうございました。

- 被害者にしないためにだけでなく、加害者にもしないためにということで、加害者に会って話をしていることのすごさを感じました。
- 市原さんの「葬式には行きたくありませんでした。」という話が、ストレートで、お気持ちが伝わってきた気がしました。
- すさまじい人生を体験され、それを社会のために還元されている市原さんに厚くお礼申し上げます、今の社会、もっともっと大人がしゃんとしなければならぬと思います。
- この春、息子の親友が新しいスタートを切って、10日目に事故で亡くなりました。18歳でした。こんな若い命がどんな理由があっても失われてはいけぬと、ただそれだけです。
- 市原さんの受けた傷を考えると、正直聞くのが辛かったです。子供たちを被害者にも加害者にもしないようにする教育を行う使命感を強く感じています。私たち教員ができることをこれからも精一杯やっていきたいと思っています。今後もこのようなお話を聞ける機会がありましたら、できるだけ参加したいと思っています。
- 本当は私たち（教師や子どもたちにかかわっている者）がしっかりしていれば、市原さんをはじめ犯罪被害者遺族や犯罪被害者の家族がしんどい思い（フラッシュバック等）をこらえながら、話をされなくてもいいのにと思います。言葉を受けとめながら、できることをしていかなければならぬと思います。
- 我が子が暴力で亡くなったら自分はいったいどのような生活をするでしょうか。しかも相手をよく知っているとしたら。加害者の人は、事件のこと

をどうとらえているのでしょうか。

子どもたちは「遊びじゃ」と言いながら、危ない遊びやいじめまがいのことをしています。今以上のことにならないために、心配で注意しても、やっている子は先生の考え過ぎじゃと聞く耳をもちません。やられている子は何も言いません。やられている子はその子と離れることができない限り、その関係が続くことをどう思うでしょうか。やっている子は本当に相手の気持ちはわかっていないと思います。気づかせていきたいのですがむずかしいです。

- 来るのに勇気がいりました。被害者の方のお気持ちを考えると、いたたまれない気持ちです。加害者にきちんと生きていって欲しいから、会い続けるといふ強いお心に心を打たれました。大人がはっきりと向き合っていないかなければならないという気持ちを強くしました。
  
- 子どもをもつ親として、自分の子ども（たち）の命を奪われるということは耐えられないことだと思います。まして、加害者とずっとかかわっておられるというその取組に頭が下がります。子どもたちのすぐ使う「死ね」という言葉。こんな言葉一つをとっても、命について思いや考えというものの浅さを感じます。お話しを聞かせていただくことで、命について考える機会になると思います。

(命の授業・1年生感想から)

(※ 表記は原文のまま)

- 市原先生が話す一つ一つの言葉にすごい重みがあって大変な経験をされたんだなと思った。

でも、市原先生よりももっと大変な経験をされたのは市原先生の次男で、その人はどれだけ苦しんだんだろうと思った。

「リンチ」僕はこの言葉がどれだけつらく、悲しく、最低な言葉か知らな

かったけど、最愛のむすこを亡くした市原先生の講演を聴いて分かった。

「温かかった手が冷たくなること、それが死ぬということ」

この言葉が一番心にじーンときた言葉だった。ぼくもぼくをととてもよくしてくれたおばあちゃんが亡くなったときに、泣きながら手をにぎった。その手はとても冷たくて、いつものおばあちゃんの手ではなかった。

それを思い出して、もっと泣きそうになった。

今日の講演は、心に残るものでした。(男子生徒)

- ぼくは先生の講演を聞きながら10月のことを思い出しました。そして、K君とのトラブルを思い出しました。あのときはなぜぼくにガンガンぶちあたってきたのかは分かりません。ただその後思ったのが、「あのやろ・・・ゆるさんぞ。」とばかり思います。でもそんなことばかり思っていたら、今度は自分がそんなことをやる人になってしまうのではないかと思って、サッパリそのことを考えませんでした。今日、市原先生の話聞いて、よかったですと思います。

命がどれだけ大切に思われているかほんとはよくわかりました。(男子生徒)

- ぼくは市原先生の話聞いて、今こうして文章を書いていることや、友達とふざけたりしているこの時間の貴重さを知った。今まで「こんなことあたりまえだ」と思いながら、やっていたいろいろな行動がとても大切なんだなと思った。

市原先生の話で一番印象に残ったことは、今動いているこの手は、使い方によっては、きょうきになったり、大きくなって新しい命を育てていたりできる手なんだ。だから、この手の使い方を誤らないでほしい、というところだ。

ぼくは市原先生の話聞いて「絶対にいじめを見たら止める」という勇気がわいてきました。

とても勉強になりました。(男子生徒)

- 市原先生は自分の子供をなくして、大変なじきとかくるしいじきもあったと思います。

でも今こうしてられるのは、あの時の悲しみや、くるしみとか、まわりの支えとかがあったから今があるんじゃないのかなと思いました。

自分がもしそういう目にあったらどうなるんと思いました。たぶん家族とか友達に支えられているんだろうなあって思いました。

人って人どうしがささえあって生きているんだろうなあって思います。人は一人では生きてはいけないし、だれかにささえられていきいてるんだと思いました。(女子生徒)

(2年生感想から)

- 今日、市原先生の話をして聞いて死ぬということは、今まで動いていた手などが動かなくなり、氷のように冷たくなってしまふことだと知った。死んでしまった家族の人は、その人の将来の顔すら想像できなくなってしまうんだなと思った。

やっぱり友達は大切にしくちゃいけないことをあらためて感じた。(男子生徒)

- 僕は、はじめてこんなきもちになりました。

あと、市原千代子先生のはなしはとてもすごくいいはなしで、とてもよかったです。僕はこんなはなしはすきじゃないけど、なんか今日の話はとてもよくてほんとうによかったです。圭司さんはすごくかわいそうだと思うけど、それいじょうにかわいそうだと思うのは「千代子先生」だと僕は思います。くやしいけど僕達の前ではなしてくれてとてもすごくいい人だ

と思いました。先生がいったようにどこかであつたらぜつたいにはなしかけたいです。(男子生徒)

○ 僕は、今日の講演を聞いて、改めて命の大切さを知った。

そして、自分の命も他人の命も大切にしないといけないなと思いました。

手を握ること・手の温かさは「生きている証明」だと思います。

普通に友達としている会話も、相手の気持ちを考えてから発言したい。軽々しく暴言を言ったり友達を傷つけるようなことをしてはいけないなと思った。

常に相手の気持ちを考えて、発言・行動していきたい。(男子生徒)

○ 市原先生が言われたように、写真を見るたびにいろんなメッセージが伝わってきたように思います。それは私には「どんなことがあっても生きてください」というもののように感じました。だから自分にどんなことがあっても命を大切にしたいです。また、自分で人を傷つけることだけは決してしないと決めました。私の手はきつといじめをしている人や暴力をしている人を止めれる手でもあると思います。そして、つらい思いやさみしい思いでいる人を支えてあげれる手でもあると思います。

私も最近のニュースを見ていると、こわくなったり、つらくなったり、おどろくことがあります。そういう事件などは早く世界から無くなって欲しいと思っています。

そのためには、自分からはたらきかけることが大切なんだと気付きました。

今回の話で私の心は落ち着いた感じがしました。(女子生徒)

○ 話を聞いて涙がでそうになった。息子さんの写真を見て、すごく何か伝わるものを感じました。私は大切な人を亡くしたことがなく、それがどんなつらさなのかわかりません。でもきつともものすごく悲しいだろうと思



ました。大切な人をうしなう気持ちを誰にもしてほしくないという市原先生の思いがすごくすごく伝わりました。

両手をにぎってみたとき自分の手は温かくてこの手が冷たくなることがそうぞうできませんでした。この生きているという証を大切にしたいと思った。それと同時に人を傷つけてはいけないと思った。今日はすごくいい勉強になった。(女子生徒)

(3年生感想から)

○ 今回の講演で大切なことを数多く教えてもらった。その一つの中に“手があたたかい、手がうごいているというのは生きているということです”というのがあった。ぼくも、11月に亡くしたおじいちゃんの手をにぎってみると氷のようにつめたかった。でも顔はにこやかで幸せそうな満面の顔だった。

けいじさんは、なぐられたあとや顔にはくつのあと。それに事件の真そうをさぐるための解ぼう。あんまりざんこくすぎて考えることができなかった。

そういう悲しい事件があっても市原さんは前向きにNPO法人おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズという事務局をたちあげ、ぼくはある意味尊敬した。ぼくもこういう前向きな気持ち、強い気持ちを持ちたいと強く思った。なぜならこれ以上大切な、大切な命がなくなってほしくないから。(男子生徒)

○ 僕は市原さんの話を聞いてすごい人だと思いました。

もし、自分が市原さんの立場で大切な人を人の手によって失ったなら、加害者である人を恨み殺したりしてしまうと思います。でも市原さんは自分が経験した思いを受け止めて、自分みたいに辛い思いをするような人が無

くなるために、このような運動をしていて人として尊敬しました。まだ、自分は幼い心を持った人間だと思いました。市原さんみたいな人になっても、マネできないと思います。

生と死について触れて、命の大切さ、重み、尊さを感じました。「人の手は、命を簡単に落とす」という発言を聞き納得しました。手は人を愛せし、便利にもでき、とつても役に立ちます。でも、一歩まちがえればおそろしいきょうきになると思います。

本当に今日は命のことや人間関係、親や身の回りの人のことを学ぶことができました。(男子生徒)

○ 「生きているということは、その手が温かいこと」

「死んでいるということは、その手が冷たくもう動かないこと」

私は、その言葉をきいたとき、祖父の事を思い出しました。祖父は去年のちょうど今の時期に病気で亡くなりました。祖父が冷たくなって帰ってきたとき、私は「お帰りなさい」と言って泣きましたが、祖父のその手をにぎったり、触れたりすることができませんでした。私はもしかしたら、祖父のその冷たい手に触れ、祖父がもう亡くなってしまったことを、動かなくなってしまったことを知ってしまうことが、認めてしまうことが怖かったのかもしれない、嫌だったのかもしれないと。

自分の中にまだ祖父が亡くなったことを否定している自分がいることに気付かされてしまい、涙をおさえることができませんでした。生きているということがどういうことなのか、死んでいるということがどういうことなのか、これからも私は自分にとい続けることだろうと思います。(女子生徒)

○ 市原さんのお話しはすごく感動的で、息子さんを失った市原さんの気持ちが、伝わってきたように思います。

今日まで、命の大切さをあまり意識せずに生きてきました。すぐに「死に

たい」と口にすることもありましたが。でも圭司さんのように、生きたくても生きれなかった人がいるのだから、そういった言葉は絶対口にしてはいけないと思いました。

生きている幸せ、友達や家族と笑い合い、ケンカし合える喜び、手のぬくもりの大切さを、市原さんにたくさん教えてもらったと思います。一人一人が意識し合えれば、いじめや暴力はなくなるものだと思います。

もう、圭司さんのような尊い命がなくならないよう、市原さんのような悲しい思いをする親がいなくなったらいいなあと思います。圭司さんの分までたくさん笑って、たくさん泣いて、たくさん生きたいと思いました。(女子生徒)

○ とても感動しました。

生きるということと死ぬということの意味や大切さを教えてもらいました。

死ぬことは簡単だけど、生きることは大変なことだと思いました。だけど今こうして私たちが生きているということは、すばらしいことすごなことだと思いました。だから辛いはずなのに、話を全て聴かせてくれた市原さんと圭司さんにありがとうございました、とお礼を言いたいです。日本中、世界中でリンチやいじめは今もどこかであると思うけど、そんなしょうもない事がいつかなくなって、みんなが普通に学校に行けたり楽になればいいと願います。(女子生徒)